

基本目標4 | 学びを支える教育環境の構築

目指す姿

子どもの学びを支える教職員がやりがいをもって、過度な負担なく働ける環境を整えるとともに、児童生徒が安全・安心して健やかに育つことのできる教育環境を構築します。

基本目標に対する指標

	指標名	基準値	目標値
主要指標	「自分が安心して学ぶことができている」と考えている子どもの割合(※1)	83.6%	100%
	「子どもと向き合うことができる時間が確保されている」と感じている教職員の割合	62%	70%
参考指標	月の時間外在校等時間が45時間未満の教職員の割合	50%	100%
	研修の理解度「研修内容について理解できた」(4段階評価)	3.69	3.7
	研修の有用度「研修での学びが、自分の仕事で活用できる」(4段階評価)	3.68	3.7
	研修の実践度「研修での学びを仕事で活用(実践)できた」	88%	88%
	安全に使用できる学校遊具の割合	100%	100%
	公立小中学校給食施設の衛生管理基準を満たした施設の割合	23%	29%
	柏市で作られた食べ物が給食で使われていることを知っている児童生徒の割合	72%	90%

(※1) 本指標は、本計画の基本目標4の達成に向けて新たに設定する指標であり、策定時点で基準とする数値がないことから、類する値として、柏市教育委員会が実施する生活学習意識調査における「困った時に相談できる人・手段があると思いますか」「学校は好きですか」「学校のトイレは使いやすいですか」のそれぞれの回答の平均値を基準値として設定しています。

施策10 働きがいのある職場づくりと業務の適正化

現状と課題

学校における働き方改革については、ICTによる業務効率化や支援スタッフの配置拡充等が進み、その成果が着実に現れてきていますが、依然として長時間勤務の教職員も多い状況です（p.78参照）。全国的にも、採用倍率の低下や教師不足、療養休職者の増加といった課題が生じています。教職員の仕事を働きやすく、やりがいのあるものとしていくため、学校・教師が担う業務の適正化を一層推進し、働き方改革の取組を加速させていくことが求められています。

柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針での方向性

- 教職員が担う業務の明確化
- 働きがいのある職場環境づくり
- 子どもと向き合う時間を確保

取組

10-1	教職員の働き方改革の推進	教職員課
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月実施する在校等時間調査の結果を市内全小中学校に還元します。併せて、セルフチェックシートを配付することで、教職員一人一人が自分の時間外在校等時間を把握し、翌月の働き方の改善につなげます。 ・教職員の負担軽減に向けた学校用務や施設管理等の見直し策として、先進自治体への視察等の調査研究を行うとともに、外部委託化に向けた検討を行います。 <p>併せて、見直しに向けた財源確保の検討を進めるとともに、国・県からの財政支援措置についても機会を捉えて要望していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なストレスチェックや産業医の学校訪問による希望面談の実施、またメンタルヘルスに係る資料配付や研修の推進を行うほか、相談がしやすい職場の雰囲気づくりについて定例の校長会や教頭会で周知を図り、教職員一人一人の心身の健康が保持できるようにしていきます。 ・働き方改革について、実践的な取組をしている市内小中学校に協力を依頼して作成した「柏市の学校における働き方改革事例集」を各学校に紹介し、文部科学省が示す同様の事例集と合わせて積極的に活用するよう働きかけます。 <p>また、働き方改革を推進することで、現場の士気（モラールアップ）の向上を図り、その成果と課題を各校で共有して各学校への浸透を図ります。</p>	
指標	基準値	目標値
中学校区で連携した働き方改革の実施率	15%	50%

10-2	人的サポートの充実	教職員課 学校教育課
------	-----------	---------------


- ・各支援員のサポートが各学校に適切に行き届くように、学校の要望も鑑みて勤務時間・勤務形態・配置を行っていきます。
- ・教員が児童生徒に向き合う時間を確保することを目的として、校務補助員の全校配置を目指し、教職員の負担軽減に取り組みます。
- ・保健室の執務を円滑に進めるために、養護教諭支援員の派遣を継続して実施していきます。

指標	基準値	目標値
事故対策教員 ⁶⁷ による未配置の解消率	60%	80%

10-3	校務の情報化の推進	指導課 教育研究所
------	-----------	--------------

校務や学校事務の情報化を推進し、効率化を目指します。中学校においてはデジタル採点の活用を促進していきます。さらに、生成AIを教育活動の中で具体的に活用する方策を検討していきます。

指標	基準値	目標値
学校のDX化の状況	小:81% 中:79%	小:100% 中:100%

10-4	電話対応業務の体制強化に向けた見直しの実施 	学校教育課
------	---	-------

保護者等への対応の質の向上や子どもと向き合う時間の確保を目的として、学校に通話録音装置の設置、コールセンターの設置を検討します。

指標	基準値	目標値
電話対応業務の体制を強化した学校数	0校	52校

10-5	学校徴収金事務の負担軽減 	学校財務課
------	--	-------

先進市や近隣市の取組を調査しながら、事務負担の軽減につながる取組として、学校徴収金⁶⁸の事務の見直しに取り組みます。学校の教職員へのヒアリングを実施するなど、事務負担の原因を把握するための取組を行います。

指標	基準値	目標値
負担軽減の取組を行った学校数	0校	63校

⁶⁷ 事故対策教員：教員の急な療養休暇、看護休暇、男性の育児休暇など、突発的な欠員に対して補充する教員

⁶⁸ 学校徴収金：学校校納金ともいい、教育活動上必要となる経費のうち、児童生徒の所有にかかるものや児童生徒に還元されるものにかかる経費として、学校が保護者から徴収する教材費、校外学習費、卒業関係費、生徒会費等をいう

施策1-1 教職員の資質・能力の向上

現状と課題

「令和の日本型学校教育」の実現に向けた新しい時代に求められる学びや、児童生徒の多様なニーズに対応していくためには、教職員の資質・能力を向上していくことが不可欠です。また、ICTを活用した様々な取組が推進されていく中、教職員においてもICTを適切に活用し、それを児童生徒に指導していくための能力が求められています。教職員の状況やニーズを踏まえ、その資質や能力を向上させることを支援する体制づくりが重要になります。

柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針での方向性

- 体系的・計画的に学びを進められる研修体系の構築
- 教育課題を解決するために職層に応じて必要なマネジメント力の育成
- 主体的に学び続ける教職員の育成
- 教職員のニーズ、教育課題に基づいた研修の実施

取組

11-1	学び続ける教職員を支える研修の充実	教育研究所
	<ul style="list-style-type: none"> ・各年次研修に「アクションプラン実践研修⁶⁹」を位置づけるなど、教職員の職層に応じて必要な資質・能力（マネジメント力・課題解決力・実践的指導力等）の向上を目指した研修を設計・実施します（p.79 参照）。 ・「研修転移⁷⁰」を促進するため、社会情勢や現場教員のニーズを把握したり、対話や情報共有を通して教職員同士の連携強化を狙ったりするなど、参加者が主体的に参加できる研修の実施及び研修効果の調査・改善を行っていきます。 ・人材育成アドバイザー⁷¹を配置し、研修の設計・運営の助言や管理職への個別の支援・助言を行います。 	
指標		基準値
研修の運営評価の平均値（5段階評価）		4.65
		目標値
		4.65



写真9 教職員の年次経験者研修

⁶⁹ アクションプラン実践研修：学校教育目標の実現に向けて、学校(自己)の教育課題を設定し、具体的な行動計画や戦略に基づいて課題解決を図る研修

⁷⁰ 研修転移：研修で学んだことが実際の現場で活用され、成果が生み出されること

⁷¹ 人材育成アドバイザー：学校管理職に対し、学校経営等に関する助言・支援を行う市費配置の一般職任期付短時間勤務職員

11-2	I C Tを活用した授業改善の推進	指導課	
<ul style="list-style-type: none"> ・ I C T活用が必要となる教育現場でのニーズや課題に基づき、研修内容や特性に合わせたプラットフォーム等を活用して研修を実施します。 ・ デジタル学習基盤を用いた学び方の改善に向けて、実践事例を創出し広く周知します。 			
	指標	基準値	目標値
	研修受講割合	50.5%	80%



1人1台端末を活用した授業改善検討委員会 (1 to 1 委員会)

○ 1 to 1 委員会とは

本委員会は、柏市教育委員会が選定した学校現場の教員で構成され、令和3年度より活動を開始しています。市内小中学生に配付されている1人1台端末を最大限に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を研究しています。大切にしていることは「子どもたちが自ら考え、学び方を工夫する力（学び方を学ぶ力）」を育むことです。

1人1台端末を活用した「子どもたち自身で学び方を学ぶ教育」の事例を市内小中学校へ広く周知し、柏市全体の学びの質の向上を目指します。



○ デジタルを活用した学びの調整（自己調整）

授業のねらいを明確にし、デジタル学習基盤（端末やクラウド環境等）を使いながら、「自分の学びの進み具合や方法」を振り返り、自ら調整する時間を意図的に設ける実践の様子です。

施策12 魅力あるイチカシづくり

現状と課題

柏市唯一の市立高等学校である市立柏高等学校（イチカシ）では、「第三次教育計画」を基に、これからの時代に合った教育と、地域に根差した学校を目指して取組を進めています。

入学者選抜における志願倍率は、普通科では1～1.3倍、スポーツ科学科では例年ほぼ1倍で推移しています（p.80参照）。

イチカシに通う生徒にとってより良い学習環境を整備するとともに、キャリア教育⁷²、グローバル教育、部活動等の特色ある教育活動を充実させ、市立高等学校としての魅力を高めていくことが求められています。

柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針での方向性

- 学習環境の充実
- キャリア教育の推進
- 地域と歩み続ける部活動
- 積極的なイチカシの魅力発信（県立学校との差別化）

取組

12-1	キャリア教育・国際理解教育の推進	市立柏高等学校 教職員課 教育政策課
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育や国際理解教育をはじめとする様々なイチカシ独自の特色ある教育活動を実施しており、今後、更なる拡充を検討していきます。 ・全学年を対象としたインターンシップのほか、講演会や課題解決型の探究活動など、各年次に応じた地域に根差したキャリア教育を実施します。 ・外国人特別入学者選抜の実施により、国際教養クラスに海外にルーツを持つ生徒が在籍することで、日々の学校生活を通じて異文化理解を深める環境を整えます。 ・トーランス北高校（アメリカ・カリフォルニア州）と30年以上にわたり実施している語学研修（相互受け入れ）をはじめとし、希望者に対して隔年で実施する中国やオーストラリアの姉妹校との語学研修など、海外姉妹校との交流を継続します。 ・イチカシの将来を見据えた持続可能な学校運営体制の構築を目指し、学校や関係機関、教育委員会で、これからの在り方についての検討を進めます。 		
指標	基準値	目標値
海外姉妹校との活動回数	72回	年72回

⁷² キャリア教育：社会的・職業的自立を促すために必要な意欲・態度や能力を育てる教育

- ・実践的なICT活用スキルの習得を目指し、情報の収集・分析・発信に関する基本的なスキルに加え、プレゼンテーションやデータの活用、AIリテラシーなど、将来に直結する実践的な能力を育成します。
- ・情報を用いた問題解決力や論理的思考力を高める授業を展開し、1人1台のタブレットを活用したグループワークやプレゼンテーション等を通じて、協働的な学びを促進します。
- ・生徒主体の検討会を通じて、生徒が主体的に活動する部活動や、地域に根差した部活動の実現を目指します。
- ・食堂や売店、スクールバスの導入に関して、費用面、人材確保及び部活動のスケジュールの観点から、長期的な視点をもって検討します。
- ・魅力ある学校づくりのため、充実した施設を適切に維持管理します。

指標	基準値	目標値
生徒の1日当たりのICT活用状況	3.5時間	4.5時間



写真10 市立柏高等学校の人工芝グラウンド

市立柏高等学校における社会課題解決型学習

○ 社会課題解決型学習とは

令和6年から市立柏高等学校で始まった社会課題解決型学習（ソーシャルチェンジ）では、課題対応能力を育み、社会参画意識を高めることを目的としています。2学年の生徒がクラスごとにグループを編成し、7つのミッションから地域課題を選び、柏市の未来について話し合い、プレゼンテーションを行いました。

活動の一環として、市役所から柏市の抱える課題について説明を受け、行政の視点を学ぶ機会もありました。さらに、学年代表グループは副市長と教育長に発表し、副市長からは良かった点や改善点の講評があり、教育長からは「ソーシャルチェンジをできるのは皆さんです。今後の活躍に期待します」との激励がありました。

生徒たちはSDGsの視点を取り入れ、環境や福祉など持続可能な社会づくりを意識した提案に挑戦しました。この活動は、次世代の地域リーダー育成に向けた大きな一歩となっています。



令和6年度生徒発表作品



生徒に向けた説明会

施策13 安全・安心な学校施設の充実

現状と課題

柏市における学校施設は、築40年以上経過した建物が約7割を占め、施設の老朽化が顕著に進んでいます（p.81参照）。子どもたちが安全・安心に学べる環境を確保するため、計画的な改修や建替に取り組んでいますが、その整備には多額の費用を要することが大きな課題となっています。

こうした状況の中で、学校施設は子どもたちの学びを支える重要な基盤であり、安心して過ごせる環境を整えることが不可欠であることから、様々な観点からの財源確保の工夫を重ねていく必要があります。

学校施設の老朽化への対応に加え、時代の変化に合わせた新しい学びへの対応など、安全・安心で質の高い教育環境の整備を継続的に行っていくことが求められています。

人口減少・少子化が進む未来に向けて、持続可能な行財政運営と適切な教育環境の確保を両立していく観点からは、学校施設の地域開放のほか、複合利用の可能性を検討していくことも課題となっています。

学校周辺も含めた地域全体のまちづくりの観点も交えて、整備の方向性を検討していくことが重要になっています。

柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針での方向性

- 近年の建設に係る現状（建設コスト増や人員不足等）を踏まえた計画の見直し
- 対応の優先度を考慮した改修又は建替の実施

取組

13-1	学校施設の更新・整備	教育施設課 学校財務課
<ul style="list-style-type: none">・平成31年3月に策定した「柏市立学校施設個別施設計画⁷³」に基づき、更新・整備を進めていましたが、当該計画の第I期が令和7年度に終了することに伴い、令和6、7年度の2か年で計画の見直しを行いました。・第I期の整備状況を踏まえ、実現可能な計画とすることから、工事手法を再検討し、校舎については、長寿命化改良工事から大規模改修工事への見直しを行います。・計画の見直しに当たって、児童生徒数・学級数の推計や施設の老朽化等を勘案した学校改修計画にしていきます。・施設の改修と併せて、備品の入替も含めた幅広い視点から、教育環境の充実に向けた取組を検討します。		
指標	基準値	目標値
①校舎大規模改修工事の着手数	①0校	①12校
②屋内運動場長寿命化改良工事の着手数	②0校	②10校

⁷³ 柏市立学校施設個別施設計画：柏市内の学校施設の安全性を確保しつつ、教育環境の維持及び向上を目指し、効率的、効果的に施設整備を進めるために策定された市の計画。学校施設の中長期的な維持管理コストの縮減や予算の平準化に努め、継続的な施設整備を行うことで、学校施設に求められる教育機能を確保することを主な内容としている

13-2 教室のICT環境の整備 指導課

1人1台端末を日常的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るために、各教室に安定したWi-Fi等のICT環境を継続して整備します。

指標	基準値	目標値
教室におけるICT環境の整備率	100%	100%

13-3 学校遊具の老朽化対策の推進 学校財務課

各学校の遊具点検を実施し、老朽化した遊具の修繕・撤去に取り組みます。撤去と併せて、遊具の更新・整備を行い、児童・生徒が安全に遊具を使用できる環境整備を進めます。

指標	基準値	目標値
学校遊具点検の実施割合	100%	100%

13-4 学校施設の複合利用可能性の検討 教育政策課

学校は児童生徒の学び舎に留まらず、「地域と連携・協働する場」の機能も有することから、他の公共施設との複合化・共用化について、先進自治体の事例の調査研究を進めます。

指標	基準値	目標値
施設の複合利用についての調査研究事例数	1例	年1例



施策14 学校の適正規模・適正配置の推進

現状と課題

柏市においても、少子化の進行による児童生徒数の減少に伴い、地域や学校による差はありますが、全体としてクラス替えができない規模の小さな学校が増加していく見込みです（p.82参照）。学校規模に応じて、各校において工夫しながら学校運営を行っているところですが、子どもたちが将来をたくましく生き抜く力を身に付けるため、一定の集団規模を確保する学校づくりを進めていく必要があります。

そのため、令和7年3月に「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針」を策定し、この基本方針に掲げた望ましい学校規模⁷⁴・学校配置及び望ましい通学距離を踏まえ、子どもたちが安全かつ安心して通学できる学校づくりを進めていきます（p.82、83参照）。

柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針での方向性

- 小学校、中学校、義務教育学校について、望ましい学校規模、学校配置及び通学距離に関する基準の設定
- 一定の集団規模を確保する学校づくりの推進
- 通学路の安全対策の充実・強化

取組

14-1	学校の適正配置とあり方の検討	教育政策課 教育施設課
規模の大きな学校及び小さな学校における学校運営や教育上の工夫等について、調査研究を進めます。		
また、児童生徒数・学級数推計において、柏市が設定する「望ましい学校規模」を将来的に上回る、あるいは下回る（一定の集団規模の確保が困難）と見込まれる学校の教育環境を維持するため、学区外就学要件や通学区域の見直し、特別教室の普通教室への転用や校舎の増築、学校統合や小中一貫校化など、各校の状況に応じた教育施策を個々に検討・実施していきます。		
指標	基準値	目標値
学校の在り方に関する視察回数	3回	年3回

⁷⁴ 望ましい学校規模：柏市において、学校間の教育条件や教育水準を一定に保ち、教育の公平性を確保するとともに、目指す子ども像・学校教育を実現するために適当と思われる学級数や児童数のこと。「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針」では、小学校は1学年当たり3学級～4学級（学校全体では18学級～24学級）、中学校は1学年当たり4学級～6学級（学校全体では12学級～18学級）、義務教育学校は前期課程1学年当たり3学級～4学級、後期課程1学年当たり4学級～6学級（学校全体で30学級～42学級）が望ましい学校規模としている

14-2	教室不足への対応	教育政策課 教育施設課 学校教育課
------	----------	-------------------------

児童生徒数・学級数推計に基づき対応している教室不足対策について、推計の精度の向上に努めるとともに、学区外就学⁷⁵及び区域外就学⁷⁶の要件や通学区域の見直し、校舎の増改築等を適宜、学校とも情報共有を図りながら検討、実施します。

指標	基準値	目標値
基準日（5.1）時点の教室不足発生校数	1校	年0校

14-3	通学路の安全対策の実施	児童生徒課 教育政策課
------	-------------	----------------

通学上の安全を確保するための対策を、地域の実情を踏まえて講じていきます。

特に柏としての望ましい通学距離（通学時間）を超過している児童に対しては、既存路線バスやスクールバス（タクシー）も含めた対策を検討していきます。

指標	基準値	目標値
通学路の安全点検により、危険箇所を把握している小学校数	32校	0校



⁷⁵ 学区外就学：柏市に住民登録がある児童生徒に対して、通学区域に基づきあらかじめ指定した小中学校以外の柏市立小中学校への通学を認めること

⁷⁶ 区域外就学：柏市以外に住民登録がある児童生徒に対して、柏市立小中学校への通学を認めること

施策15 健康を支える給食と食育の充実

現状と課題

柏市の学校給食施設は、築30年以上経過している施設が全体の約7割を占め、施設の老朽化が進んでいます。

また、多くの施設は、平成21年に「学校給食衛生管理基準」が施行される以前に建設されたものであり、現在求められている衛生管理の水準を満たすためには、当該基準に基づいた施設の改修が必要となっています。

児童生徒の健やかな成長を支えるためには、生涯にわたり心身の健康を保持増進するための資質と能力の育成が重要とされています（p.84参照）。

現在、学校現場では食育を通じて、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けられるよう取り組んでいます。地場産物の活用促進など、学校給食のさらなる充実や食育の効果的な実施が課題となっています。

柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針での方向性

- 学校給食施設の衛生管理の充実強化
- 生きる力と豊かな人間性を育む食育の推進

取組

15-1	学校給食施設の整備	学校給食課
<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食安全衛生基準に適合するよう、計画的に改修を行い、衛生的で安全な環境の整備を進めていきます。 ・学校給食センターは、施設や敷地が狭いことによる課題を踏まえ、移転建て替えを進めていきます。 ・新しい学校給食センターと高田小学校の調理場には、臨時的に給食を提供できる能力を整備し、給食施設の改修時に給食を停止しない体制を構築します。 		
指標	基準値	目標値
計画期間内に整備に着手する施設数	0件	4件
15-2	食育の充実	学校給食課
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの学びへの興味や関心、理解をより深めるために、食育や季節の行事等に関連付けた献立の提供等を通して、学校給食を「生きた教材」と活用していきます。 ・地場産物を積極的に使用するとともに、給食時間や給食だより等を活用して地域の身近な食材の魅力を伝えるなど、地域への愛着や誇りを感じられる機会を充実させていきます。 		
指標	基準値	目標値
地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数	12.6回	12回以上